

平成26年9月3日

内灘町生涯学習推進本部
本部長 川口克則様

学びの風推進協議会
会長 夷藤 保



「ふるさと愛を育むための学び」への提言について
—「うちなだ検定」の実践と充実—

貴台におかれましては、日頃から、町民の生涯学習活動の支援にご尽力を賜り、誠にありがとうございます。町行政の理解と協力のおかげによって、生涯学習の「学びの風」が、町中にさわやかに吹きわたっていることを、大変喜ばしく心強く感じております。

つきましては、学びの風推進協議会では、「町づくり」は、「人づくり」であるとの基本的な考えをもとに協議を重ねてまいりました。そして、ふるさと（郷土）のよいところを知ることが、自分と郷土に対する愛情と誇りをもつことにつながると考え、たのしく内灘の歴史や自然を知る「うちなだ検定」の実践による、「ふるさと愛を育むための学び」への提言をまとめました。町民の方々に、内灘の誇るべき自然財産である、日本海・内灘砂丘・河北潟を中心とした自然や歴史に学ぶ機会を多く持っていただきたいと思っております。

提言の内容についてよろしくご検討くださり、是非とも、今後の施策に反映させていただきましますよう、お願い申し上げます。

また、学びの風推進協議会がこれまでに行ってきました「七つの提言」、

- | | |
|-----------------------------------|------------|
| 「子どもが本に親しむ環境作り」への提言（その1） | （平成12年11月） |
| 「子どもが本に親しむ環境作り」への提言（その2） | （平成13年12月） |
| 「子どもたちの心と体を豊かに育むための生活習慣（食生活）」への提言 | （平成15年9月） |
| 「ふるさと内灘の環境を活かした学び」への提言 | （平成18年3月） |
| 「自分と郷土に誇りをもった人を育むまちづくり」への提言 | （平成19年12月） |
| 「内灘の豊かな自然を中心とした郷土の歴史の学び」への提言 | （平成21年12月） |
| 「ふるさと内灘の豊かな自然と人々のくらしの学び」への提言 | （平成24年2月） |

の継続的な推進をも、重ねてお願い申し上げます。

そして、内灘町民の一人一人が、生涯学習の基本理念である「豊かで充実した人生」を送ることができますよう、より一層のご支援をお願い申し上げます。

「ふるさと愛を育むための学び」への提言について

—「うちなだ検定」の実践と充実—

1、はじめに

内灘町は、東に霊峰・白山を仰いで河北潟を抱き、西は美しい日本海に連なる内灘砂丘の上に位置する、豊かな自然に恵まれた町です。

豊かな自然環境は、豊かな人格を育みます。学びの風推進協議会は、「人づくり」こそが「町づくり」の基盤であると考え、豊かな人づくりのための学びについて協議を重ねてきました。

心豊かな人格は、自分と郷土（ふるさと）を愛する心によって育まれていきます。ふるさとの豊かで美しい自然・歴史・伝統文化などを再発見することによって、町民一人一人の「ふるさと愛」を育てていきたいと思えます。

具体的には、内灘町のよいところ自慢できるところを、問題形式でわかりやすく知ることができる「うちなだ検定」の実践化によって、学びを進めていきたいと考えました。

平成27年（2015年）3月には、「北陸新幹線」が開業します。ふるさと内灘のよいところを再発見し、町外や県外、海外の方々に、「ふるさと自慢」、「ふるさと愛」をアピールできる人が一人でも多くなることを願っています。

2、やさしい「うちなだ検定」について（たのしく内灘の歴史と自然を知ろう！）

「ふるさと愛」を育むための「うちなだ検定」は、ふるさと内灘のよいところを問題形式でわかりやすく学ぶことがねらいです。ジャンル（分野）については、まず、内灘の豊かな「自然」と、学びの基本である「歴史」に関する内容を問題として作成しました。

「うちなだ検定」の内容は、『ビジュアル内灘町史』などから出題しています。（詳細については、別紙参照。）

以下に、問題の参考例を述べます。

(1)「自然編」について

[問題]・「河北潟は県内有数の野鳥の観測地です。今までに記録されたのは、何種類くらいでしょうか？」

- | | |
|-----------|-----------|
| 1、150種類以上 | 2、250種類以上 |
| 3、350種類以上 | 4、450種類以上 |

[解答]と[解説]

- ・「正解は、2です。河北潟は、ガン、カモ、カモメなどの水鳥の仲間や、ワシ、タカ、ハヤブサなどが多く、県内有数の野鳥の観測地と言われています。今までに観測された種類は、250種以上となります。（『ビジュアル内灘町史』p. 181参照）

(2)「歴史編」について

[問題]・古い歴史のある小濱神社が最初にあったところは、どこでしょうか？

- | | |
|----------|----------|
| 1、かほく市大崎 | 2、内灘町権現森 |
| 3、金沢市五郎島 | 4、福井県小浜市 |

[解答]と[解説]

- ・「正解は、1です。小濱神社は、奈良時代の718年（養老2年）、北方からの外敵に備えて海岸を守るため、当時の朝廷が現在のかほく市大崎に建立したのが起源です。（『ビジュアル内灘町史』p. 166参照）

その他、「自然編」の問題として、内灘町のシンボルである「町の花」、「町の木」、「町の鳥」、文化財の「シロチドリ」、「内灘砂丘」、「大野川」などがあります。

「歴史編」の問題としては、「町制の施行年」、「人口の推移」、「造成団地」、「河北潟の干拓」、「栗崎遊園」、「内灘闘争」などがあります。

やさしい「うちなだ検定」は、今後さらに内容を充実していき、町民の多くの人々がたのしくふるさとの学びを深めていってほしいと思います。ジャンル（分野）の広がりも、「自然編」と「歴史編」から、「人々の暮らし編」、「産業編」、「人物編」、「文学編」、「伝統文化編」、「民話と伝説編」、「方言編」、「年中行事編」、「風習編」など、徐々に充実していくことが課題です。

3、「学び」の具体的な実践について

「学び」は、実践と継続によって真価を生み出します。内灘町には、すべての町会に公民館が設置されています。これらの公民館の活動として、「うちなだ検定」の問題充実のための「学習会」や「研修会」、「見学会」、「資料作成会」などが行われることを提案したいと思います。

また、ふるさと愛を育む「うちなだ検定」の活用については、これまでに行ってきた、「歴史年表づくり」や「歴史探訪ツアー」などの実践とともに行うことによって、より一層の効果が期待されます。さらには、「クイズ・ラリー」、「問題冊子の作成」などにもチャレンジすることができればと思っています。

そして、生涯学習の基盤である、小中学校の学校教育活動の中で、ふるさと愛を育む学習が恒常的に行われるようになることが願われます。

4、おわりに

内灘町は、平成18年（2006年）に「第四次 内灘町総合計画」を作成しました。10年間にわたる計画の生涯学習のテーマは、「自分らしく…」「自分と郷土に誇りを持った人を育むまちづくり」です。「誇り」は「愛」によって育てられます。ふるさとを愛する心は、ふるさとのよさを発見し、よく知ることによって、さらに広がりや深まりを育んでいきます。

そして、内灘町は、平成24年1月に「町制施行50周年」を迎えました。50年前の昭和

37年1月、人口7,615人だった内灘町も半世紀の時を経て、大きく変化してきました。

「町づくり」は「人づくり」です。やさしい「うちなだ検定」の実践によって、町民の「ふるさと愛」をより一層育ててほしいと思います。

「温故知新…故（ふる）きを温（たず）ねて新しきを知る」。町民の一人一人が郷土の自然と歴史に学び、ふるさとを愛し、ふるさとに誇りをもって、「生涯学習の理念」である「豊かで充実した人生」を送ることを願っています。

以上。